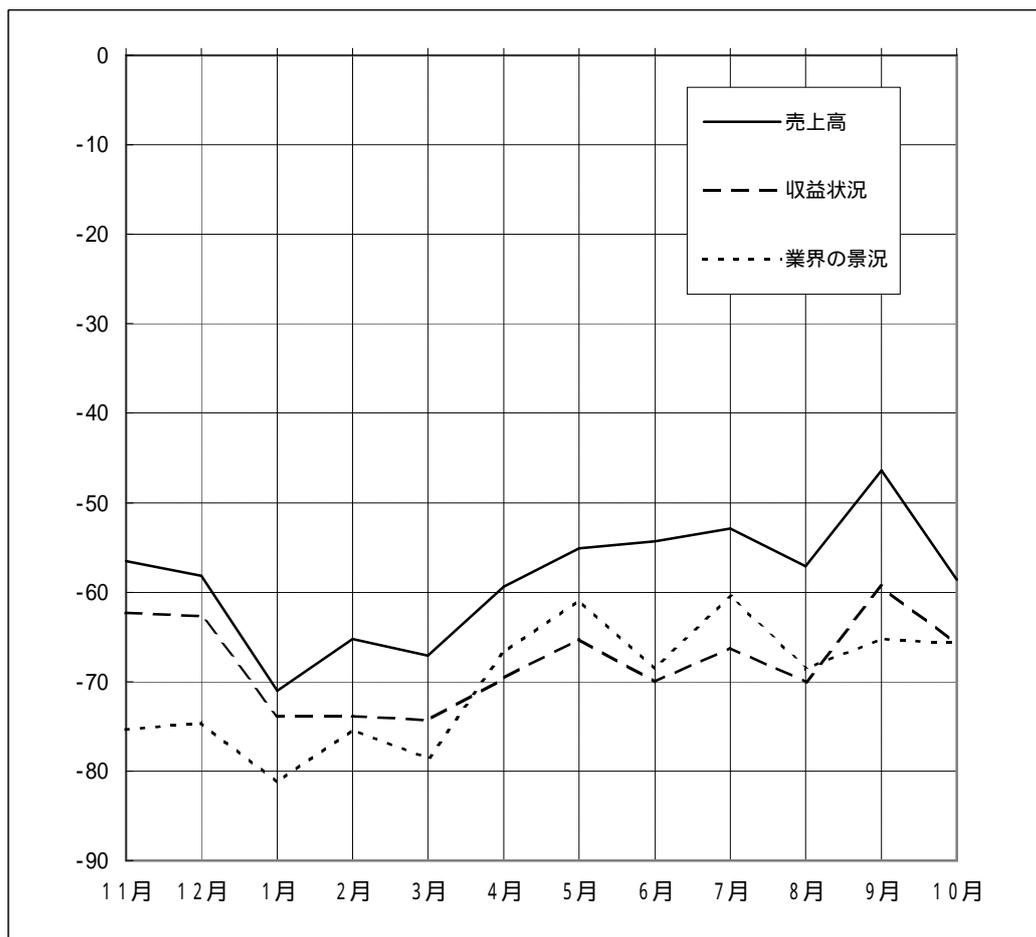


## 業界の景気動向(前年同月比)全業種DI値

平成13年11月～平成14年10月

単位:ポイント



	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	-56.5	-58.2	-71.0	-65.2	-67.1	-59.4	-55.1	-54.3	-52.9	-57.1	-46.4	-58.6
収益状況	-62.3	-62.7	-73.9	-73.9	-74.3	-69.6	-65.2	-70.0	-66.2	-70.0	-59.4	-65.7
業界の景況	-75.4	-74.6	-81.2	-75.4	-78.6	-66.7	-60.9	-68.6	-60.3	-68.6	-65.2	-65.7

10月のDI値をみると、3項目全てが前月より悪化し、相変わらず一進一退の様相。

「景況」は前月より0.5ポイントと僅かながらの悪化に止まったものの、4月より-60%台で推移している。「売上高」は12.2ポイントの悪化で8月の水準に、「収益状況」も6.3ポイントの悪化で7月の水準に戻るなど、中小企業の業況は、1月より緩やかではあるが全対的に右肩上がり推移してはいるものの、依然として低水準のまま一進一退を繰り返しており、引き続き厳しい状況下にある。

業種別の「景況」をみると、製造業では、ほぼ前月に近い状況の中で、「窯業・土石製品」で悪化の割合が増え、「鉄鋼・金属」「一般機器」で悪化とする割合が減ったものの、依然として「木材・木製品」を含めて悪化とする割合が高く、また、非製造業では、好転とする業種がみられたものの、総体的には製造業より景況感が悪く、「商店街」を含めた「卸売業」「鉱業」「サービス業」で悪化とする割合が高くなっている。

組合の特記事項からは、「鉄鋼・金属」「一般機器」を含めた製造業では、受注の減少や受注単価の下落等による売上高の減少等の他、倒産の報告や不良債権処理等金融政策への不安感の報告、「商店街」「卸・小売業」を含めた非製造業では、販売単価の低下や個人消費の低迷による売上げの減少等不況感を感じさせる報告がみられた。そんな中で、一部の商店街では空き店舗が埋まり活気を取り戻した報告もされているが、総体的には業種を問わず先行きの見通しを不安視する等相変わらず厳しい状況下にあることが窺える。